

商工会女性部はまちに  
元気と安心をお届けしています。

# はちみつ 通信

地域で回収した古着を  
コロナワクチンに換えて  
カンボジアに寄贈  
木曾町商工会女性部(長野県)



木曾町は県南西部に位置し、西に御嶽山、東に中央アルプス木曾駒ヶ岳がそびえる自然豊かな町です。  
木曾町商工会女性部では、2023年度のビジネスコミュニティ型補助金を活用して「SDGsの手法を自社経営の参考にする」をテーマに事業を行いました。SDGs講習会で先進事例や自社への活用方法を学び、2事業所が「長野県SDGs推進企業登録制度」へ登録申請しました。

続いて、コロナ禍のなか、古着を回収してワクチンに換えてカンボジアへ届ける「古着deワクチン」事業を展開しました。37人の部員が1カ月で3tを目標に取り組んだところ、わずかに10日間で達成し、10月の世界ポリオデーに合わせて発送作業を完了しました。回収に協力いただいた住民の皆さんはその場でお礼品を渡し、回収に携わった店舗のPRにもなりました。  
コロナ禍で失われた3年、人と集ま

少子化で足りていない  
小中学校の雑巾を  
女性部員が手づくり  
美祿市商工会女性部(山口県)



女性部員が手づくりして集めた雑巾



「古着deワクチン」事業の参加事業所で古着を回収。  
写真左は地域住民に協力を呼びかけるタペストリー

ることを恐れた3年、今回の事業を通して、みんなで何かができることが尊いことだと、あらためて実感する機会となったこの補助事業に心から感謝します。



梱包作業を終えて木曽ロータリークラブの方と記念撮影

美祿市は、山口県のほぼ中央に位置し、日本最大級のカルスト台地「秋吉台」や日本屈指の大鍾乳洞「秋芳洞」がある小さなまちです。

美祿市商工会女性部もコロナ禍により、活動を縮小せざるを得ない状況になっていました。そのなかでも部員一同が何か地域に貢献できないかと悩んでいたところ、「近年、学校の児童、生徒数が減少し、それまで学校が親御さんにお願ひしてきた雑巾が集まらず、足りていない」という話を耳にしました。そこで始めたのが「ぞうきんプロジェクト」です。

当初は500枚を目標に部員たちで雑巾をつくり始めました。すると「最近は無料で配布されるタオルが家がない」「ミシンをもっていない」などさまざまな問題に直面。それでも事業を進めていくうちに、やがて「ミシンを買った」「手縫いでつくる」「タオル提供はできる」などの声上がるようになりました。

こうして小学生の手にも合うように絞りやすい小さめサイズの雑巾を製作。最終的には600枚を超える雑巾が集まりました。そして「学校で心を磨き、このぞうきんで校舎を磨いてください」という言葉を添えて、美祿市内の11小学校と6中学校に届けました。

この活動を通じて商工会女性部の存

在を知っていたくよい機会になったとともに、今後も商工会女性部にもできる地域貢献を続けていきたいと思えます。今後、「ぞうきんプロジェクト」では市内の保育園・幼稚園にも届ける予定です。



雑巾の寄贈の様子

